

ネツレンの部分高強度鉄筋

一般評定物件に初採用

建設コスト評価
低減で

ネツレンの部分高強度鉄筋「ダブルスターク」が、一般評定物件の基礎梁用主筋に初採用された。これまで免震構造マンションに個別認定（18、33階）で8件採用されており、

来年6月着工予定の大型倉庫で一般評定で初めて採用された。基礎梁の主筋量の削減、とくに梁幅の寸法低減効果が大きく、施工費や建設コストを大幅に削減できることが評価された。ダブルスタークは、誘導加熱（IH）で部分的に高強度化した異形鉄筋で、普通強度と高強度の2種の強度を併せ持つ。一般評定物件の採用を機に、大型倉庫を中心に試設計の検討依頼が多数寄せられているという。

ネツレンは現行中期計画で、現場力を新しい技術につなげる「成

長エンジンの育成」を進めている。ダブルスタークの市場領域の拡大もその一つだが、他分野でも取り組みを進めている。

自動車関連中心の熱処理受託加工を手掛ける刈谷工場（愛知県）では、30年度にかけて生産・物流を整流化する「REBORN刈谷」計画が進行中。今年度はドライブシャフト製造工程の専用工場化、韓国熱錬製4軸焼入装置2台の導入や、等速ジョイント（CVJ）外輪製造工程の集約とCVJ外輪用焼入焼戻装置（塩城高周波熱錬製）の導入を進めている。

グループ会社による機械加工を取り込んだ

受託事業拡大では、ネツレン・ヒラカタが建機部品の熱処理加工の前後工程を取り込んでいくため新たにマシンングセンターを導入し、今秋に2種類の部品で需要家の工程認証を受けた。当面は7品目への拡大を目指す。ネツレングループ全体への展開も計画している。